

# 反改憲運動

## 通信 第7期

1部 200円  
2011.7.6 No. 03

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A  
淡路町事務所気付 Tel. & Fax. : 03-3254-5460  
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org  
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>  
年間定期購読料 4,000円 (2011.6~2012.5)  
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

## 2プラス2合意——不可能な辺野古移設になぜこだわるのか

6月23日の「慰霊の日」、糸満市の平和祈念公園で開催された沖縄全戦没者追悼式に出席した菅直人首相は、米軍普天間基地の返還・移設問題について質問した記者団に「いろいろ検討したが県外・国外移設は困難」「普天間基地の固定化を避けたい」と答えた。(沖縄が) 辺野古への移設を受け入れなければ普天間は固定化するという「脅し」を、66年経ってもなお癒えない悲しみの地で、平気で口にする人の神経を疑う。仲井真知事は「みんな沖縄のせい、なのか」「理解できない」と切り捨てた。

その2日前の21日、米国ワシントンで行われた日米安全保障協議委員会(2プラス2。日本から北沢俊美防衛大臣、松本剛明外務大臣、アメリカからゲーツ国防長官、クリントン國務長官が出席)で、普天間飛行場の代替施設として名護市辺野古崎に1800メートルの2本の滑走路をV字形に建設することが合意された。「最低でも県外(移設)」を公約にして政権交代した民主党政権が、打倒の対象であった自民党案にまるごと回帰したことに、沖縄県民は怒りを通り越してあきれ果てている。

日米両政府が辺野古沿岸域への移設を打ち出してから15年。その間、権力と金力を総動員したすさまじい攻勢、ありとあらゆる陰謀や策略が張り巡らされたにもかかわらず、地元住民をはじめとする一貫した反対の世論と行動で、彼らは未だ1本の杭さえ打てずにいる。昨年、地元名護市に「海にも陸にも基地は造らせない」という公約を堅持する稲嶺市長が誕生し、県内移設に反対する圧倒的な県民世論が、条件付受け入れ派だった仲井真知事を「県外移設」派に変えた。どう逆立ちしても、知事が言うように「辺野古移設は不可能」なのだ。6月末に退任する米国防長官、退任表明した菅政権の閣僚による、沖縄県民の意思を無視した頭越しの「合意」茶番劇は、県民のみならず世界の冷笑的でしかない。

2プラス2の開催とちょうど同時刻、名護市でヘリ基地反対協議会が開いた「辺野古移設問題と米軍再編」緊急学習会において、「アメリカでいま何が起きているか」と題して講演した佐藤学・沖縄国際大学教授(政治学)は、「今回の2プラス2の合意は、何が決定されたとしても全く意味がない」と断言した。「いま、とはどういう時期か。米国議会の中で辺野古移設やグアム移転に対して強い懐疑論が出てきており、グアム移転協定やパッケージ論は実質的には破棄されたと見てよい。抑止力についても、沖縄でなくても太平洋地域のどこに置いても変わらないというのが彼らの考えだ」。

辺野古移設が進まないことに焦る防衛省は、それと一体をなす海兵隊北部訓練場へのヘリパッド建設を何が何でも強行しようと、なりふり構わぬ攻勢に全力をあげている。わずか人口150人の高江集落に国家権力が総力で襲いかかり、抗議の意思表示＝座り込みをしているだけの住民を裁判所に引きずり出し(国が通行妨害で訴えた「スラップ訴訟」)、緑したたる静かなやんばるの森を、怒号と(多数の防衛局職員と作業員による)暴力の渦巻く阿鼻叫喚の地獄に変えてしまった。3月から6月までは国指定特別天然記念物・ノグチゲラの繁殖期に当たるため、重機を使う作業はできないが、7月からの作業再開を前に現場は緊張が高まっている。「空飛ぶ棺桶」として悪名高いオスブレイの沖縄(普天間基地)配備が正式に伝えられたあとだけに、「オスブレイパッド」とも言われる高江のヘリパッド建設をなんとしても止めたい。

私たち県民が求めているのは、(嘉手納基地統合を含め)県内移設なしの普天間基地返還だが、佐藤氏が言うように、その「最大の障害は日本政府と(圧倒的に無関心な)日本社会」であり、それを助長しているマスメディアだ。

(浦島悦子／ヘリ基地いらない二見以北十区の会共同代表)

周囲のお友だちの多くが原発問題で多忙となり首が回らないでいるこんな時期に、いや、きっとこんな時期だからこそその確信犯。超迷惑、ほんと腹立つのでこの怒りをたくさんの人と共有したい！ 前振り長めでしたが、「ハロー・キティ」で知られるサンリオがイスラエルへの出店を決め、もうオープン寸前だという。何と18店舗とか。自社HPなどでの発表は一切なく、情報はすべてイスラエル側報道経由だ。「無印良品」の出

### 憲壇諍言

店が、反対運動で去年コケたのを「教訓」にしてると見た。抗議文は用意中だが、儲かりさえすればいいというなりふり構わぬ開き直りへの、効果的な一撃って難しい。サンリオみたいな企業にとって「イスラエルが有望な市場」なのは、よく分かる。「この時期に海外で日本発の商品を売ってもらえるなんて、いい話」なんて声も出たりして。まだ聞こえてもいないネガティブ反応を予測する、冴えない今日この頃である。(た)

## ◆報告◆

# 株主総会を茶番劇に変えた東電経営陣

第87回株主総会は、一方的な質疑打ち切りと共に402名の株主提案を一蹴して終わった。しかし会場の雰囲気は圧倒的「勝利」だった。

脱原発・東電株主運動は1990年から連続して株主提案を続けてきた。一度90%以上の大差で否決されてしまうと同一議案を連続して提案できなくなる制限により、脱原発の単純な議案ではないが、主なものでもこれまでに耐震設計審査指針以前（78年以前）の原発廃炉（福島第一原発廃炉）議案（2005年）、運転開始以来40年に達する原発の廃炉（福島第一の1, 2, 3号機廃炉）議案（2009年）などを出してきた。

おしなべて全原発が危険なのはそのとおりだが、より老朽化し、さらに前時代の耐震設計で、設計したGEの技術者すら「欠陥炉」と指摘してきた福島第一原発を早く止めないと大変な事態になるかもしれないという思いは共通だった。

ところが東電は、その切迫感とは対照的に「今まで無かったことはこれからも無い」的な、根拠のない自信のもとに漫然と原発を動かし続け、原発震災を引き起こした。今回の議案はその「人災」への責任の取り方として最低限のことだったが、一部生保の大株主も含めてそのような責任には興味がないことが分かった。

総会の会場に戻ろう。これまでの株主総会は、脱原発株主が質問や議案提案に立つと「もう原発の話はたくさんだ」というヤジが飛んだ。議案提案を行う株主にも容赦ない罵声が浴びせられた。いわく「電気を使うな、江戸時代に戻れというのか」。

今年はその罵声が東電の役員に向けられた。「原子炉の中に入れ」「おまえたちが避難所に行け」。会社側提案は今回は

人事案件しかなかった。その取締役役一人ずつ答えを迫るのは私たちだけではなかったし、監査役に対し責任を問う声も少なくなかった。結局20人以上が質問や動議に立ち、その全てが脱原発で、原発の推進続行を言う株主は1人だけだった。

会場にいた株主9309人の人数で決められるものならば、おそらく脱原発議案は成立したかもしれない。しかし実際には株式数の過半数を握る2名（2社）の大株主が立てた代理人が反対に回ったため、否決されてしまった。

株数に対する賛成票は約8%、反対票は約89%、不明3%と発表されている。当日の議決件数の8%とはこれまでの原発反対議案では高いが、株主運動として提案してきた議案の中では取締役の個別報酬開示請求が33%という高率の支持を得ていたことを考えれば、まだまだ高くなってもおかしくはない。しかし先に紹介した城南信用金庫だけでなく南相馬市や白河市の賛成も表明されているとおり脱原発の議案は深く広く浸透し始めている。

来年まで東電が存続し得るかどうかとも分からないが、今後の展開次第では大きな成果を得られる可能性は高い。しかしその前に、紀藤正樹弁護士がツイッターに書いているとおり「今回の株主提案は、将来及び過去の取締役責任を求める際にまさに踏絵を迫る提案」である。紀藤弁護士自身が反原発の意思表示のために20年前に株を買ったという。

一部の大株主の委任状を盾にして、強引に自らの責任を回避するためだけに行われた株主総会。経営者としてこれほど責任を感じていないのならば、次なる手段は法廷に持ち込むことだ。株主代表訴訟で勝俣氏らを法廷で待つことになろう。

（山崎久隆／たんぽぽ舎）

## ◆報告◆ 何も語らない「企業と融合した労組」への憤激

6月29日猛暑の日に、仲間たちと東京の田町にある東京電力労働組合と上部団体の電力総連に申入書を持って話し合いに行った。内容は、①福島原発の労働実態にかかる情報開示、②非正規労働者の対偶改善、③原発を推進する「基本認識」の白紙化再検討、の3点である。田町駅南口すぐの線路脇にある東電労組には約30人が押しかけ、北口から東京タワーが見える慶応大学先にある電力総連前に集まった人々は40人を超えた。

東電労組の対応はひたすら頑なだった。実はこの前の20日にも書面を手渡すために訪れている。2階受付まで行くと「ビル内は立ち入り禁止」と1階玄関まで押し戻し、名前も部署も名乗らず、文書も受け取らない。「警察を呼ぶ」と繰り返す50代の白髪の背後、ロビーの壁に「仲間」と日の丸の左右に染め抜かれた旗。福島現地社員への激励の寄せ書きが一杯である。事務職員らしくない物言いに、騒ぎ立てる者に何が分かる——という怒気を感じた。もちろん、この怒りは会社に向けるべきである。この日も、さらにガードマンで固めて敷地に立ち入らせない。毎日のように報道される「社員でさえ」高濃度の被爆者続出という事態が、彼らをハリネズミにしているのは明らかだ。この緑色のビルは「礎会館」という。社員たちは原発の礎、つまり人柱なのか？ 原子炉はそういう「生け贄」を求めている。

電力総連で迎えてくれたのは、今度は歯を食いしばった数人の男性社員とロープの阻止線である。外国大使館と高級マ

ンションとKOボーイの街にはおおよそ合わない。電力会社のお客様40人全員で話し合いを、という当然の願いに聞く耳もないという丁重な歓待ぶりだった。ともかくテーブルにつくことにし、代表6人で入る。私が聞いたのは交代した後半である。内田事務局長いわく「見解の違いですね」「答える必要がない」「内部の話で言えない」。東電労組には当該の危機感を感じたが、こちらは「全国一括苦情処理係」である。無内容が仕事なのだ。それでも一つだけ「深遠」なことを言った。

答えに窮したあげく、被曝した人々たちへの対応について雇用者団体である電気事業連合会に要望書らしきものを出したという。では、その書類を見せてください。ネットにあるんですか？ 巨大な独占企業の産別労組連合体として、当然公開する社会的使命がありますよと問うと、事務局長氏は思わず口ごもり「社会ってなんですか？」と答えたのである。

私は直ちに「社会など存在しない」と言ったサッチャーおばさんの言葉を思い出した。新自由主義の口火を切った1980年代のイギリス首相である。国家や資本と人間の間には何も無い。自己責任の選択肢だけだ。おそらく内田さんの言葉は、この欧米製鋳型から打ち出されたものではない。経営資本と社員たちが融合した温くて恐ろしいユートピアに、恰幅のいいこの人は生きている。その外には「社会」も「世界」もない。話はこれで終わりという。こういうユートピアを私たちは突き崩したい。

（平井玄／福島原発事故緊急会議）



6・26福島

## ◆報告◆「グッバイ原発 さよなら放射能1万人パレード」に参加して

6月26日、3.11以降初めて行われるという福島市での反原発デモ「グッバイ原発・さよなら放射能1万人ハンカチパレード」に、東京で六ヶ所再処理反対の活動を行ってきた人々などの呼びかけで、50人以上が乗るバスを仕立てて参加した。福島に着くなり、線量計を持参した仲間が福島駅前や集会会場である県庁前などで放射能濃度を測定する。地元の人々は不安げに近寄ってきて人だかりとなる。水たまりの上は2.7マイクロシーベルト、小学校の校庭の放射能除去作業で盛られた土山の上はブルーシートの上からでも3マイクロシーベルト強を表示。しかし、地元の人々のマスク率は10%にも遠く及ばない。中学生たちは、雨中を半袖で傘もささずに濡れながら走っている。線量計を傘もささずにのぞきにきた地元の高校生に「傘をさしたほうがいいですよ」と仲間が声をかけると「普段、もっと線量の高いグラウンドでサッカーをしているのでだいじょうぶです」と言う。街に氾濫する「がんばろう福島」の虚しい掛け声の陰で、「フクシマ大虐殺」がいままさに進行中という現実を目の当たりにさせられた。

福島県庁の敷地での集会場は強い雨の中、約千人の参加。「一万人パレード」と銘打たれたデモだが、一万人にはいささか及ばなかった。午前中には、このパレードの企画と

て放射能対策講座などが開催されていたとのことで、若いお母さんたちで盛況だったようだが昼過ぎからどんどん強くなる雨を前に帰られたということだ。子どもたちを被曝させても仕方ないので、当然のことだろう。

集会宣言は訴える。「福島は死んでしまったのか？いや！我々はこの福島で生きている。そして今叫びをあげている。福島を遠く離れて、心を同じくして叫びを挙げている人達がいる。福島は絶対に死んではいけない。我々はどんなことがあっても生き続ける。我々が生き続ける限り、我々の子供達が生き続ける限り福島は必ず蘇る。そして再び蘇ってみせる」そして、「全力で福島事故を収束させること」や「原発事故被災者への十分な補償」「放射能被害から全力で県民を守ること」などを政府・東電に求め、「これは、この事故を機に人類は愚かさから決別する“独立宣言”だ」と高らかにしめくくった。デモは、政府・東電の事故の責任の追及や「市民の力で子どもたちを守ろう」「御用学者・ヤマシタ追放」などの訴えの他に、同時刻佐賀で闘われている玄海原発の再稼働阻止の闘いと連帯もアピールされた。継続した取り組みで、福島・原発立地地域の住民とのつながりをたしかなものにしなければならぬことを痛感した遠征となった。

(栗原学／アジア連帯講座)

## ◆報告◆米軍が「トモダチ」か？ 横田にも辺野古にも基地はいらない6・25横田行動

毎年、横田基地周辺をデモする行動が、今年は震災における自衛隊・米軍の動きを意識したテーマ設定になった。僕は仕事の都合で集会に遅れての参加だった。今にも降りだしそうな曇り空の下、私服警官が会場である福生市さくら会館の回りを所在なげに取り巻いていた。

3階ホールでは、本日のメイン講師である東京新聞特報部デスクである田原牧さんの講演が始まっていた。『「アラブの春」と福島第一原発事故』と題する講演の最後の方だけ聞くことができた。

田原さんはアラブ民衆運動の高揚を実際に現地に行って取材してきている。用意されたレジュメの「はじめに」では、「2011年上半期に起きた二つの事件（チュニジアの『ジャスミン革命』やエジプトの『1月25日革命』をはじめとする『アラブの春』、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発事故）は世界史の節目となるかもしれない」と書かれている。これが彼女の問題意識。印象に残ったのは、現地ではとにかく子どもがウロチョロしていたというエピソード。革命の原点になった広場は解放区であり、その「非日常性」「解放感」が子どもには理屈抜きで楽しくてしょうがなかったらしい。親にせがんで広場に連れていってもらうため、親子連れが多かったとか。言われてみれば、確かにこの手の「解放区」的空間って子どもが多かったなあ、と思い出しながら聞いていた。政とは祭りだなと改めて思ったりした。

続いて池田五律さんの「東日本大震災での米軍・自衛隊」。なんでも改憲勢力は今回の震災を機に「緊急事態宣言」を発令することを狙っていたらしい。これは「緊急事態」という名目で諸個人の権利を制限し、国家的諸政策を貫徹しようという制度らしい。読売やサンケイでは「緊急事態法案を成立しろ」的な話がされているとのこと。これって超ヤバイくねえ？ また今回の原発事故対応では自衛隊を本部とした消防・警察・東電の体制ができていたとのこと。なんか、超怖くねえ？ 10月に予定されている都の防災訓練の中身が見えた気がした。

これら講演の後に、反原発運動の有志、辺野古実、新宿ど真ん中デモからの発言。最後に「被爆労働の廃絶へ『電力総連』を動かそう6・29行動」からの提起を受けて集会は終了。横田基地までのデモへ。

集会中は時折雷もなる豪雨だったが、デモ時にはやんでいた。基地前ではデモ隊から別れて申し入れをする行動に警備のおまわりさんがイチャモンをつけてきた。軽くイラッときた。基地関係者と思われる家族連れのオッサンがボーッと見ていた。入ろうにも門が閉まっているから困っている風。一平君が申し入れ書を基地内に投げ込もうとしたけど風で戻ってきてしまうので、格子の隙間からボタンと落とした。あの申し入れ書はどうなるのか。ささやかな疑問。

(難波ひろし／国立駅前反戦)

## ◆報告◆コンピュータ監視法の成立を弾劾し、共謀罪の登場を許さない!

6月17日、コンピュータ監視法は参議院を通過し成立してしまった。この法律はもともと共謀罪とセットで自民党時代に画策されたもので、その思想性は共謀罪と同型である。

主要な法律の問題性を以下に列挙する。

第1に、ウイルス作成罪・供用罪の新設があげられる。作るだけでば撒かなければ誰にも迷惑をかけないのだから罰せられるべきではない。しかも対象が「電子ウイルス」に限定されておらず、プログラム作成行為が対象とされる危険性を払拭できない。つまりウイルス作成を口実としたコンピュータに対する監視体制を構築することが狙いなのである。

第2に、差押許可状に記載されていない「場所」にある電子データの差押えを認めていることから、ネットワークにつながっているデータが一網打尽に持っていかれる危険性が出てくることがあげられる。

第3に、プロバイダに通信記録を最大60日間消去しないよう要請できる点。この保全要請は任意捜査としているため、令状なしで濫用され、半強制状態が作られる危険性がある。通信履歴も思想信条を構成するものであり、決して通信内容から切り離されるべきものではないはずだが、保護すべき対象から除いてしまった。また、通常通信履歴は通信内容であるメール本文に付与されるものであり、通信内容も一体として差し押さえられてしまうことも考えられる。

こう見てくると、この法律の狙いはインターネット時代の民衆のコミュニケーションをいかに効率的に監視・管理できるかという点に収斂していることがわかる。

ウイルスを作成しただけで犯罪となるとというのはまさに共謀罪の構造と同じものであり、思想・表現の自由を侵害するからこそ、民主党は野党時代から反対の姿勢を取ってきたのだ。本来政権奪取後の民主党は共謀罪とセットであったコンピュータ監視法に賛成できるはずもない。ところがこの構造はこの問題に限定されるものではなく、例えば今秋上程されようとしている番号法と全く同じだ。野党時代、民主党は住基ネット廃止法案を4回国会に上程している。ところが、住基ネットなどその比ではない個人情報の濫用の危険性を持つ「共通番号制」を今や率先して進めようとしている。そこにあるのは官僚支配であり、政治主導などは微塵もない。コンピュータ監視法や共通番号制を自民党時代から進めなかった官僚からすれば、むしろ民主党という抵抗勢力を味方につけて今や怖いものなしという、私たちににとって恐ろしい状況に立ち至っているという認識だけは持っておくべきだろう。そういう意味から私たちは現在の民主党政権と対峙していかなければならない。コンピュータ監視法の次に出てくるものは、共謀罪なのだから。

(宮崎俊郎／反住基ネット連絡会)

### 憲法を読む◇

## 『二つの憲法』 ——大日本帝国憲法と日本国憲法

井上ひさし 著／  
岩波ブックレットNo.812／  
500円+税

久しぶりに真っ向憲法の書を紹介します。1999年10月に刊行された、『the 座 昭和庶民伝三部作特別号』（こまつ座発行）に掲載されたものの再録で、今年の6月に発売されたばかりのブックレットです。

①憲法の誕生、②大日本帝国憲法ができるまで、③戦争から敗戦まで、④日本国憲法ができるまで、の4部からなっていて、内容はつまっていますが、全体で63ページしかない薄くて読みやすいものです。

詰まっている内容は井上さんがよく勉強なさった成果で、世界における憲法の生い立ち、概念、二つの憲法が成立したときの経緯などがコンパクトにまとめられています。列強に遅れて「開国」した日本が、西欧諸国と肩を並べてゆくためには、憲法を持たないと一人前にならないのだと気づき、1876年に元老院に対して「……朕ここに我建国の体に基き広く海外各国の成法を斟酌し以て国憲を定めんとす」（原文の仮名はカタカナ）という勅語がでて、伊藤博文がドイツに行ったり、薩摩派、長州派、維新功労者などがそれぞれの立場で勉強して憲法に取り組みました。この勅語にある二本の柱、「建国の体に基き」と「海外各国の成法を斟酌し」は、二つの憲法の芯であるだけでなく、「日本人の性癖」であると井上さんは言っています。

現行憲法について、米国から押しつけられたものだから変えて、日本国独自のものをつくらなければならない、という議論をよく聞きますが、どこの国でも先行している他国の法

を学びつつ憲法はつくられていくもので、日本から憲法学者が他国の憲法草案をつくるチームに参加しているケースもあると言っています。

西欧の憲法は国王や元首が国民の権利を侵害することがないようにつくられていること、人々の権利の保障が確保され、権力の分立が規定されていないものは憲法ではないとまで言明されていることを、よく覚えておくように井上さんの助言があります。できた大日本帝国憲法はみせかけの「立憲君主制」で、じつは「絶対君主制」の内容でした。天皇の名において、政府・軍隊がこの国を追い込んだ悲劇は体験としては十分過ぎるものでした。

敗戦でどん底までいった日本国を統治するのに天皇の利用は便利であるとの米国の判断で、折角の新憲法にも天皇制は残ってしまいました。ではあるけど、天皇制の存続に不賛成だった国々を納得させるために、天皇条項以外の部分は、これまでの憲法学の理想を盛り込んで、第二次世界大戦の悲劇はもうごめんだ、という各国をも安心させる「軍備放棄」を核とした憲法がうまれたのだと、井上さんは力説します。

軍隊を持ってこそ「普通の国」である、と主張し、なんとか現行憲法を変えたいとする輩は諦めず、虎視眈々と「改憲」を狙っています。こんどの震災さえ利用しようとしている気配です。平和憲法を守るために、井上さんのこの「反改憲」への遺書を熟読玩味していきたいと思っています。

(梶川凉子／事務局)



# 反改憲ニュースクリップ

2011年6月17日～6月30日

## 2プラス2合意で 辺野古V字型滑走路案に回帰

**【6月17日】〈コンピュータ監視法〉** コンピューターウイルスの作成・供用罪を新設することなどを定めた改正刑法（いわゆるコンピュータ監視法）が参院本会議で可決、成立した。共産、社民両党を除く各党の賛成多数。

**【6月19日】〈PKO派遣〉** 7月9日に分離独立するスーダン南部の平和維持活動（PKO）に自衛隊の施設部隊の派遣を求める非公式の打診が国連からあったことが判明。

**【6月21日】〈2プラス2〉** 日米両政府が日米安全保障協議委員会（2プラス2）を米國務省で開き、共同文書を発表。米軍普天間基地の移設問題では、名護市辺野古に造る代替施設を滑走路2本のV字形に決定。移設目標の2014年は正式に断念し、「できる限り早期」とした。その他の合意内容としては、①米軍艦載機の陸上空母離着陸訓練（FCLP）の移転先として鹿児島県・馬毛島を検討と明記、②海上配備型迎撃ミサイルの米国から第三国への輸出容認を確認、③東日本大震災を受け地方公共団体の防災訓練への米軍参加が地元との関係強化に重要との認識で一致、など。**〈広島君が代訴訟〉** 入学式などで君が代斉唱時に起立しなかったとして戒告処分を受けた広島県立高校の教職員と遺族ら45人が、県教委に処分取り消しを求めた訴訟の上告審判決で、最高裁第3小法廷（大谷剛彦裁判長）が合憲判決。原告敗訴の1、2審判決が確定した。判決では、君が代斉唱まで命じられた一部原告について、田原陸夫裁判官（弁護士出身）が「君が代斉唱の強制は、国歌に否定的な歴史観、世界観を持つ人の内心の核心部分を侵害しうる」として高裁への差し戻しを求める反対意見を述べた。これで、5月末から同種の訴訟で4件連続で原告が敗訴することになった。**〈神奈川国旗国家訴訟〉** 入学式などで起立して君が代を斉唱するよう求めた神奈川県教委の2004年通知は思想・良心の自由を保障した憲法に違反するとして、県立学校の教職員ら130人がそうした通知に従う義務がないことの確認を求めた訴訟の上告審で、最高裁第3小法廷（那須弘平裁判長）が教職員側の上告を棄却する決定を下す。これで、教職員側の訴えを却下した2審判決が確定した。

**【6月22日】〈原子力〉** エネルギー関連の関係閣僚で構成する「エネルギー・環境会議」（議長・玄葉光一郎国家戦略担当相）の初会合が開かれ、向こう1年間の節電対策などを盛り込む「当面のエネルギー需給安定策」を、7月にも策定する方針を決めた。冒頭にあいさつした菅首相は、原発依存度を低下させる方針を確認する一方で、「短期的には現実に即した解決策を検討する」と指摘し、停止中の原発再開に向け、地元の理解を得る方策を探るとした。**〈池子住宅地区〉** 防衛省の深山延暁・南関東防衛局長が逗子市を訪れ、同市と横浜市に

またがる米軍池子地区に予定する米軍家族向け「本設小学校」建設が同日の日米合同委員会で合意されたと報告した。今年度に工事契約を結び、来年夏ごろの着工を見込む。同小建設に伴い池子地区40ヘクタールの共同使用を求めている逗子市は、年内の使用申請に向けて米軍と財務省との間の調整を進めるよう、改めて防衛省に要請した。**〈オスプレイ〉** 沖縄県宜野湾市議会が、米軍が来年10月に予定する普天間基地への垂直離着陸輸送機MV22「オスプレイ」の配備の撤回を求める抗議決議を全会一致で可決した。

**【6月23日】〈空母艦載機移転〉** 山口県岩国市の福田良彦市長が、普天間基地の移設問題が解決する前に、厚木基地から岩国基地への空母艦載機部隊の移転を受け入れるかどうかについて、「厚木と普天間は切り離して、別の考え方で対応していきたい」と受け入れの可能性を示唆する発言。

**【6月24日】〈空母艦載機移転〉** 北沢俊美防衛相が、厚木基地から岩国基地への空母艦載機移転問題に関し、山口県の二井関成知事は「評論家的なことだけを言っている。会うことすら避けている人の論評を真剣に取り上げることはない」と批判。二井知事は、艦載機移転について、「自民党政権時代から『普天間とパッケージ』として説明を受けている」とし、難航している「普天間解決の見通し」を条件につけていた。

**【6月27日】〈普天間〉** 菅直人首相と沖縄県の仲井真弘多知事が首相官邸で会談。菅首相は米軍普天間基地を辺野古に移設しV字形滑走路を建設したい意向を改めて伝えるが、仲井真知事はこれへの反対を表明。**〈原子力〉** 高速増殖原型炉「もんじゅ」や日本原子力発電敦賀原発が立地する福井県敦賀市の市議会原子力発電所特別委員会が、再生可能エネルギーへの転換を求めるなど、エネルギー政策の見直しを国に求める意見書案の本会議提出を取り下げた。24日には全会一致で可決していたが、賛成した議員に市民から「脱原発で雇用はどうなる」といった苦情が寄せられたという。

**【6月28日】〈空母艦載機訓練移転〉** 米陸上空母離着陸訓練（FCLP）の移転先に鹿児島県西之表市の馬毛島が検討されている問題で、鹿児島県議会が移転反対の意見書案を全会一致で可決。さらに、西之表市議会の馬毛島対策特別委員会が、馬毛島移転の可能性に絡んで、同島に自衛隊を誘致することに反対する陳情を全会一致で採択した。

**【6月29日】〈原子力〉** 九州電力玄海原子力発電所（佐賀県玄海町）2、3号機の運転再開問題について、海江田万里経済産業相が佐賀県庁内で古川康知事と会談し、再開への理解を求めた。古川知事は国の原発安全対策に理解を示し、「安全性の問題はクリアされたと考える」と述べ、再起動を容認する意向を示した。海江田大臣は、岸本英雄・玄海町長とも会談。町長は「安全は確認された」としてあらためて運転再開を容認した。運転が再開されれば、福島第一原発事故以降、定期検査で止まっていた原発としては初となる。

**【6月30日】〈原子力〉** 福井市敦賀市議会が、日本原子力発電敦賀3、4号機増設事業を推進する立場から、福島第1原発事故を踏まえた安全指針を示し、立地自治体や住民に明確な説明をするよう求める意見書を賛成多数で可決。他方で、再生可能エネルギーへの転換を求める決議は否決された。

# 12 私も一言 133

園良太 (東電前アクション／新宿ど真ん中デモ)

## 何よりも自分が楽しくなきゃ

日本のデモはなぜこんなに警察に管理され、車を優先しなければならないのか？ と疑問に思う人は多いと思う。反原発デモに大量の警察官を見た外国の人に、何度も「こんなのデモじゃない」と言われてきた。でも、7月1日の「高江へリパッドお断り！ 辺野古新基地お断り！ 防衛省ど真ん中デモ」は本当に楽しかった。思う存分暴れさせてもらった。頭

は落ち着かせていたが、あまりにひどい挑発を繰り返す警察や公安にいろいろ反抗した。中指を突き立て、罵倒し、看板やガードレールを蹴り飛ばし、道を一人でジグザグと左右に歩いた。人数も少なくガチな参加者が多いので、全体のテンションも上がり続ける。そして防衛省の目の前にゴールしようとした瞬間、先導車の運転手が車からポンと飛び出し「防衛省解体!!」熱いコール。僕もそれに合わせて道いっばいに広がり「防衛省解体!!」と飛び跳ねたり雄たけびをあげたり全身でアピールした。その後も申し入れ行動を規制する警察のカラーコーンをみんなで蹴飛ばし、脇に寄せ、無効化し、職員を取り囲んだ。

この日の僕は端から見ればチンピラそのもの？ でもいいじゃん、チンピラで。いつでも街頭行動は未組織の若年労働者がたくさん参加して盛り上ってきた。礼儀正しい行動だけでは変わらないときがある。「面白そう！ 暴れられそう！」と思える場を今よりもっと作り出したい。人の底力が解放される瞬間を作りたい。何よりも自分が楽しい。そのとき権力秩序は変わる。そう思った7月始めの夜だった！

## 集会・行動情報 7/9 ~ 7/25

▶ **7/9 (土) 死刑廃止条約発効20周年記念集会** 今、私たちはどこへ向かうべきか ◆ 13:00 ~ ◆ 講演：阿部浩己さん、対談：雨宮処凛さん + 太田昌国さん ◆ 日本大学法学部三崎町キャンパス10号館1階1011ホール (JR総武線水道橋駅下車) ◆ 集会後「西神田公園」からデモ予定 ◆ 資料代：500円 (25歳以下無料) ◆ アムネスティ・インターナショナル日本 (03-3518-6777)、死刑廃止国際条約の批准を求めるFORUM90 (03-3585-2331)

▶ **7/10 (日) 天皇の被災地「巡幸」——何やッテンノー!?** ◆ 13:30 ~ ◆ 伊藤晃、彦坂諦、天野恵一 ◆ ピープルズ・プラン研究所 (東京メトロ有楽町線江戸川橋駅下車) ◆ 反天皇制運動連絡会 (03-3254-5460)

■ **今こそ反安保・反自衛隊の声を！——震災を利用した改憲の動きを許すな！ 7・10デモと集会** ◆ デモ：15:00 ~ 東池袋中央公園 (池袋駅東口サンシャイン60隣)、16:00 出発 ◆ 集会：17:30 ~ 豊島区民センター4F第3集会室 (池袋駅東口下車) ◆ お話：木元茂夫さん (すべての基地にNO! をファイト神奈川)、加藤克子さん (立川自衛隊監視テント村) ◆ 集会実行委員会 (03-3961-0212 北部実)

■ **原発はいらない西東京集会** ◆ 15:30 ~ 集会、16:00 ~ デモ出発 ◆ 田無四丁目第3公園 (西武新宿線田無駅北口下車) ◆ 17:00 ~ 自由広場「ゲンパツイラナイト」 ◆ 西東京市役所田無庁舎市民広場 ◆ 原発はいらない西東京集会実行委員会 (042-461-3246 柳田、042-424-3410 阿部)

▶ **7/12 (火) 狭山事件の再審を求める市民集会** ◆ 18:30 ◆ 総評会館 (JR御茶ノ水駅、東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅、都営地下鉄新宿線小川町駅下車) ◆ 同集会実行委員会

▶ **7/16 (土) 第62回市民憲法講座「原発のない暮らし」は可能か?** ◆ お話：西村智己三さん (ジャーナリスト) ◆ 14:00 ◆ 文京区民センター3C会議室 (都営地下鉄三田

線・大江戸線春日駅、東京メトロ丸の内線後楽園駅下車) ◆ 許すな！憲法改悪・市民連絡会 (03-3221-4668)

■ **「廃炉は浜岡から」反原発集会～原発震災講演会** ◆ 講師：石橋克彦さん (神戸大名名誉教授) ◆ 13:00 開場 ◆ 静岡労働政会館6階大ホール (JR静岡駅下車) ◆ 資料代：500円 ◆ 主催：浜岡原発を考える静岡ネットワーク (浜ネット 054-271-7302)、共催：反原発自治体議員・市民連盟

▶ **7/17 (日) 「廃炉は浜岡から」反原発集会～デモ** ◆ 13:00 ◆ 静岡市常盤公園 (JR静岡駅下車) ◆ 主催：浜岡原発を考える静岡ネットワーク、共催：反原発自治体議員・市民連盟

▶ **7/23 (土) くり返すな！原発震災 つくろう！脱原発社会 新宿デモ** ◆ 集会 18:30、デモ出発 19:00 ◆ 新宿中央公園「水の広場」 (新宿駅西口下車 都庁そば) ◆ 共催：原発止めよう！東京ネットワーク (プルトリウムなんていないよ！東京、大地を守る会、原子力資料情報室、日本消費者連盟、たんぼぼ舎、ふえみん婦人民主クラブ) / 再処理止めたい！首都圏市民のつどい

■ **レイバー映画祭2011「とんでもない時代にノー」** ◆ 10:00 開場 ◆ 田町交通ビル6階ホール (JR田町駅芝浦口下車) ◆ 上映作品：「ハードレインーパンドラの箱からふりそそぐ放射能」、「世界は恐怖する一死の灰の正体」、「コカコーラ・ケース——多国籍企業の犯罪」など ◆ 通し券：一般当日1500円、前売り・予約1300円 ◆ レイバーネット日本 (03-3530-8588)

▶ **7/24 (日) 「君が代」最高裁判決糾弾！大阪府「君が代」条例撤廃！ 7・24集会** ◆ 13:30 集会、16:30 デモ出発 ◆ 文京区民センター3A (都営地下鉄三田線・大江戸線春日駅、東京メトロ丸の内線後楽園駅下車) ◆ 石原・大原都教委の暴走をとめよう！都教委包囲・首都圏ネット (09-5415-9194)